

Ⅲ スポーツ施設整備方針の設定

1. 市川市全体の施設整備方針（長期）

○市川市スポーツ振興基本計画・基本理念

健康で、ふれあい生まれるスポーツのまち、市川

○スポーツ施設整備の基本的な考え方

市川市スポーツ振興基本計画の基本理念である「健康で、ふれあい生まれるスポーツのまち、市川」を実現していくためには、スポーツが生活の一部になることが重要である。

街中のコンビニエンスストアのようなスポーツの場所も必要であり、大型ショッピングセンターのような複合的スポーツの拠点も必要となる。

高齢化への対応も含め気軽にスポーツを楽しむ公園や健康サロンなどの街中スポーツ施設の充実や専門的なトレーニングやインストラクター*によるスポーツ教室、プロをはじめとしたスポーツ大会やイベントなどが開催できる複合機能を持つ体育館やアリーナなどのスポーツの拠点の創出が重要となる。

また、スポーツを楽しみながらコミュニティや仲間との連携を築くフットサルやこれからのスポーツをにやうジュニアの施設など、地域や仲間、子供の育成に密着した施設も求められる。

さらに、地域特性を活かしたスポーツの展開も重要となる。水辺に近い地域では、ウインドサーフィン*やカヌー*などのウォータースポーツ*も可能であり、北部の丘陵地帯では、マウンテンバイク*やトレッキング*も楽しめる可能性が高い。

様々な場所と機会、環境を活かしたスポーツの場を市民に提供することにより基本理念の実現が可能となる。そのためには、スポーツに接する機会の均等が最も基本となる。

また、基本となる施設は別として、同じ機能を各地域に整備するのではなく、地域間の特徴を持たせ、様々な機能をネットワークさせることにより、効率的な施設整備が促進され、地域の個性が発揮できるものとする。すなわち、テニスの拠点、サッカーの拠点、野球の拠点など、地域によりスポーツの核をつくることも重要と考える。

○施設整備方針

- 地域格差の是正
 - ・ 運動・スポーツに親しむ機会の均等
 - ・ 地域が必要とする施設の整備
 - ・ 個人で手軽に利用できる施設の充実（トレーニング*・ジョギング・ウォーキング等）
- 高齢化への対応
 - ・ 今後も進展する高齢化に対する「健康」の増進を図る施設の充実と整備
 - ・ そのためのプログラム、ソフト*面の充実
- 市川市スポーツセンターの施設率緩和
 - ・ 施設率 50%への再整備
 - ・ 運動・スポーツ機能の移転及び施設規模の縮小（テニスコート・体育館等）
 - ・ 十分なオープンスペースの確保
- 運動・スポーツのネットワーク化
 - ・ 地域特性、地域の核となる施設の整備
 - ・ 各施設を中心に身近に親しめる施設の配置とそのネットワーク
- スポーツの感動を楽しむ施設の整備
 - ・ プロのスポーツや様々なイベントが楽しめる施設の整備
 - ・ スポーツ観戦できる観客席の充実

2. 北東部の施設整備方針（中期）

○現状

○スポーツ施設配置の現状

- 少年広場等の野球場が配置されている
- 夏季だけの利用となる市民プールが配置されている
- 民間施設のアーセナルサッカースクール市川が開校している
- その他の公共スポーツ施設は配置されていない

○人口構成等の現状

- 人口は北西部ゾーンよりやや多く、今後の発展が見込まれる
- 男女ほぼ同数である
- 高齢者率が23.76%で、市全体の19.4%より高く、高齢化の進展が見られる

○社会的情勢

- 対象地に近接する都市計画道路3・4・18号の整備が進められており、完成により北東部へのアクセスが格段に向上し、浦安方面や湾岸方面から直結し、地域の大きな交通軸となる
- JR武蔵野線沿線では新駅の設置を含めたまちづくりが検討されている
- 人と緑との関わりを大切にし、周辺環境に十分に配慮し、人と自然とのつながりあるまちづくりの推進が求められている

○施設整備方針

- 運動・スポーツに接する機会を増大させる
 - ・身近に楽しめる運動・スポーツ施設の整備
 - ・個人で手軽に利用できる施設の充実（トレーニング・ジョギング・ウォーキング等）
 - ・高齢化に対応した「健康」の増進を図るための施設及びプログラムなどのソフト面の充実
- 地域特性を活かしたゾーンの核となる施設整備
 - ・プールの屋内化による通年型への利用拡大と健康増進機能へのシフト
 - ・ジュニアスポーツの拠点としての施設の整備（サッカー・ラグビー・テニス等）
 - ・地域の運動熱を活性化させる核となる施設の整備（複合的大型体育館）
- 運動・スポーツによるまちづくりとの運動
 - ・地域の発展を加速させ、運動熱を盛り上げる核となる施設の整備（複合的大型体育館）
 - ・地域コミュニティを育む施設の充実（グラウンドゴルフ等）
- スポーツの感動を楽しむ施設の整備
 - ・公式スポーツ大会が開催できる施設の整備（テニスコート・体育館）
 - ・プロのスポーツや様々なイベントが楽しめる施設の整備
 - ・スポーツ観戦できる観客席の充実
- 人と自然のふれあい豊かな緑地・レクリエーション空間の整備
 - ・周辺環境を活かし、連携した中での緑豊かな自然と人とのふれあい生まれる環境の整備
 - ・自然を身近に感じ、レクリエーションとともに楽しみながら学習できる環境の整備

3. 北東部のテニスコートの施設整備方針（短期）

○現状

○テニスコートの施設配置の現状

- まとまったテニスコートは、市川市スポーツセンターと福栄スポーツ広場に配置されている
- 市川市スポーツセンターは9面あるが、サーフェスの異なったコートが3面ずつあり、同一条件下での大会開催に問題がある
- また、分散配置されており、大会の運営、日常時の管理に大きな課題を抱えている
- さらに、9面のコートの内、3面がクレイコートであり、2～3月のときに整備を行うため、利用機会減につながっている
- 福栄スポーツ広場は7面であり、全て砂入り人工芝となっている
- 市川市スポーツセンターと福栄スポーツ広場とも、照明施設がないため、1日の利用時間が短い
- 国体においては20面を確保した開催となっており、その他の全国トーナメントでは12～20面、地区トーナメントで8～12面で、公式トーナメントでは試合用に8面、練習用に4面の計12面が必要とされている
- 現状では、大きな大会の際は市川市スポーツセンターと近隣学校の施設や福栄スポーツ広場に分散して開催されており、いずれも観覧席がない
- 硬式テニスの主な大会では、平成25年度において男子シングルスで約300名、団体ダブルス及び女子ダブルスでは約200組と、非常に多くの参加者により大会が行われている
- 中学生のテニス大会には、観戦しに多くの関係者や保護者が訪れている

○施設整備方針

- 同一条件下での大会開催が行える規模のテニスコートを整備する
 - ・ 地区トーナメントが開催できる8面以上を整備する
 - ・ コートのサーフェスは全て統一したものとする
 - ・ コートサーフェスは、プレイヤーの体に負担がかからず、通年利用できるものとする（砂入り人工芝等）
- 大会等の運営が円滑に行え、プレイヤーが集まれる余裕あるオープンスペースを確保する
 - ・ プレイヤーが多く集まるクラブハウス*前空間を広く確保する
 - ・ 大会運営者や関係者の控える空間をクラブハウス内に確保する（大会本部等は屋外テント）
 - ・ 試合の間や休息時、昼食時等にゆっくりと時間が過ごせるよう、多目的広場や舗装広場などを大きく確保し、休憩施設も充実させる
- スポーツの感動を楽しむ施設の整備
 - ・ スポーツ観戦できる観客席の充実
- 通常時の利用も快適にする
 - ・ 施設・設備の充実したクラブハウスを整備する
 - ・ テニス教室が開催でき、プレイだけでなく各種レクチャー等ができる施設もクラブハウス内に設ける
 - ・ 夜間の利用向上のための照明施設を整備する
- 多目的な利用にも応える
 - ・ 地域の健康を支える施設として、ジョギング、ウォーキング、軽スポーツ等や憩い、レクリエーションに供する空間をあわせて整備する
 - ・ 周辺環境を活かし、緑豊かな自然と人とのふれあいが生まれる環境を整備する
 - ・ 自然を身近に感じ、レクリエーションとともに楽しみながら学習できる環境を整備する